

## 東電の津波対応時系列表

年	月日	出来事
2002年	7月31日	政府「地震調査研究推進本部(推本)」から <b>長期評価</b> が公表
	2月	土木学会津波評価部会が「原子力発電所の <b>津波評価技術</b> 」公表
2003年	3月24日	推本地震調査委員会が <b>長期評価</b> をCランクと公表
2004年	12月26日	スマトラ島沖地震発生。インドなどらす原発停止。
時期不明		保安院、電力事業者に「3年以内でBCを終えて欲しい、ダメなら原発止め再審査」
2006年 (18年)	1月	土木学会の地震学者アンケートで <b>長期評価</b> 0.6 <b>津波評価技術</b> 0.4
	7月	東電が50年以内の津波確率10m超1%、13m超0.1%と算定した「マイアミレポート」報告
	9月13日	保安院安全情報検討会(津波の緊急度)「対策を確認する。不作為を問われる可能性がある」
	9月19日	原子力安全委員会「 <b>新耐震指針</b> 」
	9月20日	保安院の指示書「3年以内でBCを終えて欲しい、それでダメなら原発止めて再審査」
	10月6日	保安院が電気事業者に一括ヒヤリング「津波に余裕が少ないプラントは対応とれ」
2007年 (19年)	7月16日	新潟中越沖地震発生。柏崎刈羽1号機で消火用配管破裂で浸水事故
	11月	土木調査Gが、推本の <b>長期評価</b> 検討開始
	11月19日	東電設計が7.7M以上と試算
	12月	東電関係者、 <b>長期評価</b> に対応した津波策定へ。2009年6月までに耐震BC最終報告へ
2008年 (20年)	2月16日	東電地震対応打合せ、7.7m以上の試算報告(3人出席)
	2月26日	今村文彦教授「福島県沖海溝沿いで大地震が発生することは否定できない」と指摘
	3月18日	東電設計が三陸型地震の想定で最大15.7mの津波試算
	3月20日	東電地震対応打合せ、耐震BC「中間報告書」提出に伴うプレス発表の想定問答集了承
	3月29日	東電地震対応打合せ、耐震BC「最終報告」で <b>長期評価</b> 考慮する旨記載の想定問題了承
	6月10日	土木調査Gが武藤氏に津波15.7mの試算報告、10メートルの防波堤設置の必要性を説明
	7月31日	武藤氏が土木調査Gに方針変更。 <b>長期評価</b> を土木学会の検討に委ねる
	8月22日	土木調査Gが延宝房総沖型地震で最大13.6mの津波を試算
	9月10日	耐震バックチェック説明会「現状より大きな津波高を評価せざるを得ない。津波対策は不可避」
	10月	津波評価部会委員・保安院、推本 <b>長期評価</b> を土木学会に委ねる方針について了解
	11月	東電土木Gが貞観型地震で最大9.2mの津波を試算
2009年 (21年)	6月11日	東電、土木学会に調査研究依頼
	6月25日	株主総会の手許資料「 <b>長期評価</b> と貞観津波を考慮すると非常用海水ポンプは水没する」
	6月～7月	地震津波地質地盤合同WG 委員がBCに津波考慮指摘、東電保安院名倉審議官先延ばし
	8月	保安院が東電に津波対策の説明要請。貞観型津波が建屋敷地高超える試算と報告受ける
	9月	東電が貞観津波の試算結果を保安院に報告
2010年	3月	保安院森山審議官の原子力発電安全審査課長宛メール「東電役員が貞観津波認識」
2011年	3月7日	東電が保安院に最大15.7mの津波試算を報告
	3月11日	東日本大震災が発生。東京電力福島第一原発で電源喪失事故

- ※ 推本＝地震調査研究推進本部
- ※ BC＝バックチェック
- ※ 土木調査G＝東電土木調査グループ